

# 日風園周

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第124号 令和7年(2025)1月10日

## 資料見聞

### 西園寺の城・松葉城と表採遺物

一条氏と並び、今回の企画展「西南四国の中世社会と公家」で取り上げるもう片方の主役である伊予西園寺氏。この頁では、西園寺氏に関連して愛媛県西予市の松葉城についてご紹介をします。

西園寺家の一族が宇和地域に土着して最初に築いたのが松葉城です。ここからは以前より、多くの遺物が地元

方々によって採集され、それらは西予市宇和歴史民俗資料館で保管・展示されています。発掘もされていない城跡から、多くの遺物が表採されているのは稀なことです。

表採遺物には、貿易陶磁器の青磁や白磁、国産陶器の備前焼、土師質土器や瓦質土器などが見られます。青磁や白磁の器形の特徴や、青花が含まれて

いないことから、城が最も機能した時期が15世紀代であると推定できます。

特に注目される遺物として、瓦質土器の風炉と呼称される茶道具や石臼などがあります。この場所で喫茶が行われていた証拠になると考えられます。茶道具といえば、天目茶碗が山城では出土することが多いのですが、今回の表採遺物では認められません。しかし、将来発掘調査を行うと、必ず出土すると確信しています。

西園寺氏は、京都から連歌師を招いていたとの伝承もあり、また青磁の中に香炉も含まれていることから、戦いの場である城の中でも風雅なひと時を過ごしていたことが想像できます。

秋から冬の季節に松葉城跡に登ると、天気が良い日の朝には雲海を見ることができ、



- 1 麓に雲海がひろがる松葉城跡
- 2 松葉城跡主郭
- 3 貿易陶磁器(青磁・白磁)
- 4 国産陶器(茶道具など)

幻想的な光景がひろがります。当時の当主も、連歌師と雲海を眺めながら和歌を詠み、連歌に興じていたのかもしれない。(松田)

# 企画展 西南四国の中世社会と公家

会期：令和7年2月28日(金)～5月6日(火・振休)

松田直則  
曾我満子

本展で取り上げる「西南四国」とは、主に高知県の幡多地方と愛媛県の南予地方を指します。県境をまたいで、古くからこれらの地域は相互に人の往来や交流があり、文化的な共通性が指摘されていますが、中世の本地域に焦点を当てた本格的な展覧会はこれまで開かれたことはありませんでした。

中央と地域の二つの視点から内容を構成しました。本展の主人公、あるいは核となるのは、土佐の一条氏と伊予の西園寺氏です。両氏ともそのルーツは、同じく京都の藤原氏です。展示はI～IV章から成り、以下概略を資料写真等とともに紹介します。

## ■I章 西南四国と公家

昨年度より、本展に向けて愛媛県歴史文化博物館とともに資料調査を行い、その成果として、同館においては、テーマ展「西南四国の中世社会と公家」(会期：令和6年12月17日～令和7年1月26日)を開催し、当館においては、企画展「西南四国の中世社会と公家」として開催するこ

ととなりました。また、同館の特別協力を得て、図録も刊行しました(詳細は4頁)。

本章では、鎌倉時代初期に活躍した西園寺公経を中心に、中世京都の公家の様子を物語る遺構や出土遺物をご紹介します。公経は、現・金閣(鹿苑)寺の場所に、その前身となる北山殿を築き、その中に西園寺を造営しました。



土佐一条家五代像  
宇和島市龍集寺蔵

本展では、主に鎌倉時代から戦国時代に至る時代を取り上げ、

一条兼定の墓がある宇和島市戸島の龍集寺には本資料が伝わっており、土佐一条氏にゆかりの7人の肖像を描いている。最上部に一条氏の祖藤原鎌足を描き、その下に土佐に下向した一条教房から、長宗我部氏のもとで大津御所とも呼ばれた一条内政までを描く。

家名はこの寺にちなんでいます。また、現・京都大学吉田キャンパス付近にも邸宅を構え、「吉田泉殿」と呼ばれました。公経の妻は源頼朝の姪で、公経自身は後鳥羽上皇の兄にあたる後高倉院の甥です。そのため、関東申次として朝廷と幕府の連絡・調整を行い、幕府とも強いつながりを持ちました。その権勢は、平清盛を超えた、とも評され、鎌倉時代の京都を代表する人物です。



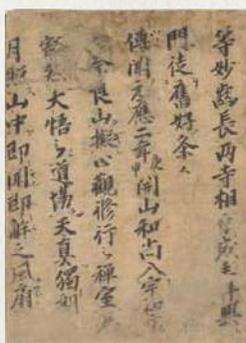
吉田泉殿跡出土土師器(左)・白磁片(右)  
京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター蔵

やがて、京都の公家であった西園寺家は伊予の宇和荘を、九条家から分家した一条家は、土佐の幡多荘を受け継ぎ、直接荘園経営にのりだします。一条家の場合、応仁元年(1467)に始まった応仁の乱を避けて幡多へ下向した、と説明されることが一般的です。

が、荘園の直接支配が目的であったと考えられます。しかし、下向した最大の目的に迫るためには、この時代の情勢を大きな視点で見直して考える必要があります。それは本展の主要なテーマであり、最終の第IV章において、あらためて考えてみたいと思います。

## ■II章 有力寺院と公家

宇和荘には西園寺家、幡多荘には一条家が根付いていきましたが、その地域支配においては、実務の担い手が不可欠で、寺院の存在を抜きには考えられません。幡多荘においては、金剛福寺、宇和荘においては等妙寺です。



等妙寺縁起(重要文化財)  
西予市齒長寺蔵【県内初公開】  
(愛媛県歴史文化博物館管理)

齒長寺に伝わる縁起の中世の写本。内容は等妙寺(鬼北町)と齒長寺の両寺院にまつわるもの。齒長寺は、もとは孝謙天皇勅願寺として建立されたと伝わり、後に西園寺家の代官開田善寛の発願により、戒壇院設立のため元応2年(1320)から宇和郡入りしていた理玉和尚を中興開山として、元徳2年(1330)に再興され、京都法勝寺の末寺となった。元徳2年から67年間にわたり住職寂証が見聞した出来事や風聞などを記しており、元弘建武年間(1331～1338)の動乱に関する記事も多い。【1/4～5/6のみ実物展示】

金剛福寺は、幡多の莊園領主一条家の祈願寺として発展しました。鎌倉時代のには、三度の火災で堂舎が焼失しましたが、勧進活動により再建されています。この勧進活動を行ったのが、「阿闍梨慶全」という金剛福寺中興の僧であり、後に香山寺に入寺した南仏上人と推定されています。一条家より多くの供田を寄進され、寺領内は万雑事免除、殺生禁断で、莊官、雑掌、甲乙人不入の地とされ、様々な優遇がなされていました。その寺領は、足摺半島以外に幡多莊本庄の四万十川下流域や大方庄に及んでいます。香山寺(現・四万十市)、観音寺(現・四万十市)、飯積寺(現・黒潮町)は、金剛福寺の寺領支配の拠点となる末寺であり、いずれも十一面観音菩薩を本尊とした観音菩薩の霊場です。この末寺が年貢の収納を請け負い、寺僧が船所職に補任され、年貢を京都の莊園領主に納め



木造南仏上人坐像(高知県保護有形文化財)  
四万十市教育委員会蔵

ていました。

香山寺は、四万十川と中筋川が合流する河川交通の要衝に位置しています。当時の香山寺の様子は、麓に位置する坂本遺跡の発掘調査により明らかとなつています。遺跡では13〜15世紀にかけての香山寺・里坊と推定される大規模な寺院遺構が検出され、国産陶器のほか中国・東南アジア・朝鮮産の貿易陶磁器など多様な遺物が大量に出土しており、当時の香山寺の隆盛を物語っています。



四万十市坂本遺跡の瓦窯跡  
高知県立埋蔵文化財センター提供

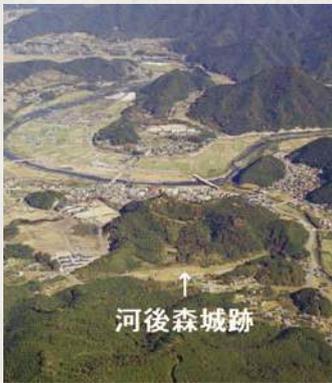
坂本遺跡で検出された大型建物跡は寺の堂宇と考えられており、寺内の窯で瓦を焼成して、その瓦を堂宇に葺いている。

を知らせる手紙を持参した、との記述があります。香山寺の里坊「中ノ坊」が坂本遺跡にあたりと推定されます。教房一行は、河口の下田から四万十川を遡上し、香山寺の中ノ坊に落ち着き、中村御所ができるまで、この地に滞在していたのではないかと考えられます。

### III章 地域領主と城郭

本章では、西園寺家と一条家を核に地元の有力者とのつながり・敵対の様子を古文書や寺社資料、城郭から紐解いていきます。

永祿期(1558〜70)の南予争乱(高島・鳥坂合戦)において、一条兼定は伊予の宇都宮氏に援軍を送り、宇和郡の領主たちも一条方に参陣しています。一条家臣団の築城技術は、南予地域の城にも導入されていることが



松野町河後森城跡(国指定史跡)  
松野町教育委員会提供

河後森城は国境に位置する城で、城主は河原淵氏。河原淵教忠は一条家から養子に入つたとされている。

わかつてきており、一条氏と南予領主の繋がりには神社に残る棟札や城郭遺構からも見ることが出来ます。

その後、天正年間(1573〜92)に入り、長宗我部元親が伊予侵入をしていく時期に、元親は大洲盆地(現・大洲市北部)の土豪である平氏に書状を送っています。その内容は、河野氏の軍勢と戦った土佐方の土豪が田所城攻めの手違いで退却したことをやむをえないとし、内子の曾孫宣高と相談して、計略を進めるよう求められているものです。伊予侵入の指揮をとっていた久武親直の名前も見え、天正9〜12年(1581〜84)の書状と考えられています。



長宗我部元親書状 7月28日(天正9〜12年(1581〜84)カ) 平出雲守宛

近年、平氏の支配域に所在する元城跡が発掘調査されており、畝状堅堀群という注目すべき遺構が確認されています。この堅堀群は、岡豊城跡にも見られ、長宗我部家臣団が四国侵攻時に用いた築城技術です。文献と発掘調査の成果が結びつき、長宗我部氏や土佐方伊予兵の動向がより明らかとなりました。

このような長宗我部元親の四国制覇の中で、あるいは信長から秀吉へという中央の動きの中で翻弄される南予の武将たちの姿とともに、伊予西園寺家と土佐一条家の終焉までをたどります。

#### ■IV章 公家が西南四国に求めたもの

西南四国における幡多の九条および一条と、宇和の西園寺との関係に似た状況は、西北九州においてもみられます。それが九条につながる彼杵荘と西園寺につながる宇野御厨の関係です。

このうち、宇野御厨に関わる「御厨」の東で、伊万里湾を望む場所から発見されたのが鎌倉時代の松浦市楼楷田遺跡です。出土した遺物類には、瀬戸内東部から持ち込まれた東播磨系埴鉢がみられます。また、同市の宮ノ下り遺跡からも中国陶磁器や東播磨系埴鉢および畿内系の瓦器碗が見つかっています。これらの資料と西園寺との関係をすぐにつなげることはできません

が、鎌倉時代において宇野御厨と、瀬戸内や畿内をつなぐ存在がいたことを物語っています。

一方、彼杵荘は建長2年(1250)の「九条道家初度惣処分状」に九条家領として見え、鎌倉時代終わりには、円爾を招請して九条道家が開いた東福寺に本家職が寄進されています。この彼杵荘を主な生産地として、平安時代の終わり頃から南北朝期にかけて、西日本と鎌倉で使われた煮炊き具が滑石製石鍋です。

注目されるのは、この石鍋が多く見つかる場所と、経済活動や中国文化の影響を受けた人々との関係がうかがわれる点です。円爾は博多の承天寺も開き、承天寺開基にかかわった有力者は日宋貿易



長崎県松浦市楼楷田遺跡出土埴鉢(右)・滑石製石鍋(左)  
松浦市教育委員会蔵

を展開していた宋商人の謝国明です。東福寺が中国との交易に積極的だったことは、「東福寺」と記された木簡がみつかった新安沈船が示しています。すでに網野善彦氏が指摘しているよ



金剛福寺の仏飯器(土佐清水市指定文化財)  
土佐清水市金剛福寺蔵

坏部外面に「堺奈良良／屋与二郎／観音堂／寄進／天文九／庚子／八月十／九日／金剛／福寺」と刻されている。もう一口には「権現」と刻されており、堺商人が海上安全と商業繁栄を祈願して奉納したものと考えられる。

天文年間(1532～55)は、一条家が土佐中央部に侵攻をして勢力を拡大した時期でもあり、弘治年間(1555～58)には房家の息子の尊祐が金剛福寺の院主となっている。この時期は、金剛福寺が寺院として勢力を拡大したと考えられており、畿内との交流も頻繁に行われていたと想定できる。この仏飯器により、幡多荘を所領とした一条氏と堺商人との関係や対明貿易のほか、沖繩やルソンなども含めた東アジアにも目を向けた堺商人の活動を知ることができる。

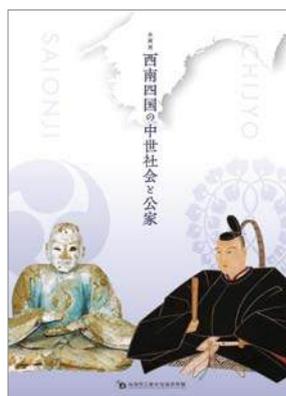
うに、西園寺氏は淀川と瀬戸内を経てつながる東アジア交易に強い関心をもっていました。中世の西南四国と西北九州でみられるこの状況は、九条もまた東アジア交易に強い関心を持っていて、その答えを導くうえで、重要なポイントであるといえるでしょう。

本展の図録を当館と愛媛県歴史文化博物館にて先行販売中です。

1500円(税込)

A4版 113頁 550頁

(送料) レターパックライト430円



章と節の解説のほか、出品資料の図版・解説、以下のコラム・特論も掲載しています。

◆コラム「一条氏・長宗我部氏の南予進出の実態を考える」 山内 治朋氏

◆特論一「海の国、土佐の源流を西南四国から探る―鎌倉時代の京の覇者との関係をふまえて―」 鋤柄 俊夫氏

◆特論二「二條教房の幡多荘下向と在地勢力―『大乘院寺社雑事記』に見る幡多荘直務支配の様相―」 東近 伸氏

◆特論三「一条氏と南予地域の城郭」 松田 直樹

# (公財)高知県遺族会を通じた戦争関連資料の寄贈について

亀尾 美香

令和6年9月、高知市吸江にある(公財)高知県遺族会を通じて、当館に戦争関連資料636点が寄贈されました。同会は、戦没者遺族の全国組織である(一財)日本遺族会の傘下であり、県内出身戦没者の慰霊や、遺族の援護相談に関する事業等を実施しています。その一環として、同会は戦時資料の収集や一時保管などおこなっています。

当館では平成27年度にも、同会を通じて12名の遺族から256点の資料を寄贈いただいております、今回が二度目となります。今回寄贈いただいたのは、8名の遺族から集められた勲章や軍装品、写真、日記、手紙など、主に遺品を中心とする資料群です。

ここから、いくつか特徴的な資料を、写真とともにご紹介しましょう。今回の寄贈資料636点のうち、大半の568点を占めるのが、故・岡田肇造氏の遺品です。甥御さんと姪御さんがそれぞれ分割して保管していました。

岡田肇造氏は大正11年、高知市西町の生まれで、昭和12年に県立高知城東中学校(現・高知追手前高校)を中退、

東京陸軍幼年学校に入学しました。卒業後は埼玉県豊岡町の陸軍航空士官学校(現在は航空自衛隊入間基地が立地)に入学、パイロットになるための訓練を受けます。その後は部隊に配属されて中国に出征、昭和18年5月、南京付近で敵機と交戦中に被弾、戦死しました。満23歳の若さでした。

陸軍幼年学校から士官学校へ進むのは、当時、陸軍軍人になるためのエリートコースでした。同氏の資料の大部分は、陸軍幼年学校から士官学校時代のテキストやノート類で、戦没者の遺品としてはやや異色かもしれません。しかしそれだけに、他では見られないような貴重なものが含まれています。

写真1・2はいずれも学生時代のテキストやノートです。「射撃学」といった、軍人の学校ならではの教科です。

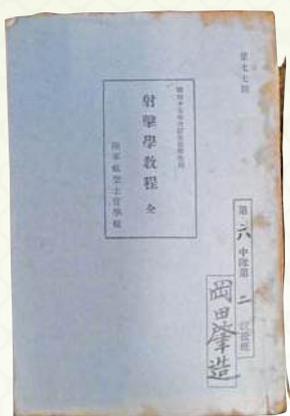


写真1「射撃学教程」

ページをめくると、中には熱心に勉強に励んだ様子をうかがわせる書き込みがあります。

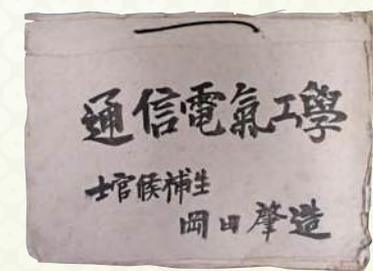


写真2「通信電気工学」

学生時代のテキストをこれほど保存していた同氏は、日記の類も多く残しています(写真3)。また、好んで絵を描いており、数点ある写生帳(写真4)には高知の風景も描かれています。これらのうち、特に日記は、当時の若者がどのような教育を受け、どのような心情で戦時下



写真3 日記

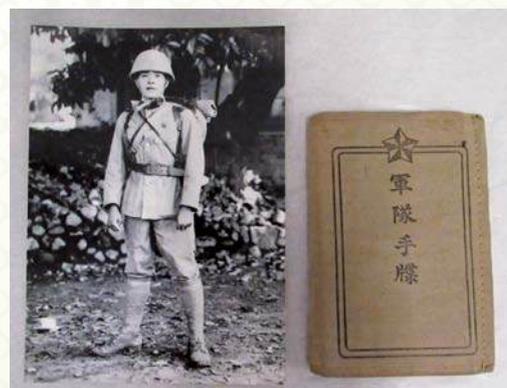


写真5 今回寄贈いただいた資料のうち、故・橋本英一氏の写真(左)と遺品の軍隊手帳(右)



写真4 写生帳

の日々を過ごし、戦場に向かっていったのかを知るてがかりとして重要です。紙幅の関係で全てをご紹介することはできませんが、今後内容を読み解き、展示などで順次公開していきたいと考えます。

今年は、昭和20年(1945)の終戦から80年の節目の年です。戦争を知る世代が少なくなり、資料も散逸の危機にあります。これらの品々は、今後戦争を知る世代がいなくなっても、「戦争」の現実を語りつづけてくれる大切な存在といえます。

## 企画展 三館連携企画

# 「生誕二〇〇年 河田小龍」を終えて

那須 望

幕末から明治にかけて活躍した土佐の絵師、河田小龍の生誕二〇〇年を記念した企画展を令和6年11月1日から令和7年1月5日まで開催しました。

この企画展は、県立坂本龍馬記念館、県立美術館との連携企画でした。いずれも（公財）高知県文化財団が指定管理を行っている施設ということもあり、これまでも展覧会等の相互割引を行うなどの連携企画を実施してきました。しかし、今回の小龍展は、1つのテーマを3館それぞれの視点で企画展を行うというこれまでにない連携方法でした。

### ■連携のはじまり

連携展のきっかけは、数年前にはじまった「小龍日記を読む会」でした。小龍はよほど筆まめだったらしく、毎日の日記を残しています。その日記は現在県立美術館に所蔵されていますが、あまりに膨大であることから、学芸員の有志が集まって解説を行う勉強会を行ってきました。コロナ禍もあり、結局、すべてを解説するには至りませんでした。日記を読み進めるなかで小龍の画業、幅広い人脈などに改めて気づかされました。3館の学芸員には、「美術史的な視点から、土佐の絵師の

一人として取り上げるだけでは、小龍の全貌はみえてこないのではないか」という共通の疑問が浮かんできました。その結果、生誕二〇〇年を迎える節目の年である令和7年に連携して展覧会を行うという企画が持ち上がりました。

### ■連携からみえてきたもの

まずは、なんとといっても「超人・小龍」の姿です。土佐における足跡は、室戸岬から足摺岬に及び、津野町などにも作品が残されています。1つの館だけでは調査しきれないほどの作品数ですが、3館がそれぞれ、また時には合同調査をすることによって、これまでに確認されていなかった作品も多くご紹介することができました。

そして、明治20年代から京都に住まいを移していることから考えても、土佐での活動範囲の広さには改めて驚かされました。スケッチから始まり、掛軸、衝立、襖絵、屏風、絵馬……枚挙にいとまがないほどの多種多様な作品たち。すべてを展覧会場でご覧いただくことはできないので、本展では、バスツアーやウォーキングイベントを開催し、実際に現場に向いて小龍作品をじっくりご覧いただく機会を設けました。ツアーにご参加いただけなかった方にもそのエキスを感じていただけるよう、「河田小龍おさんぽマッ

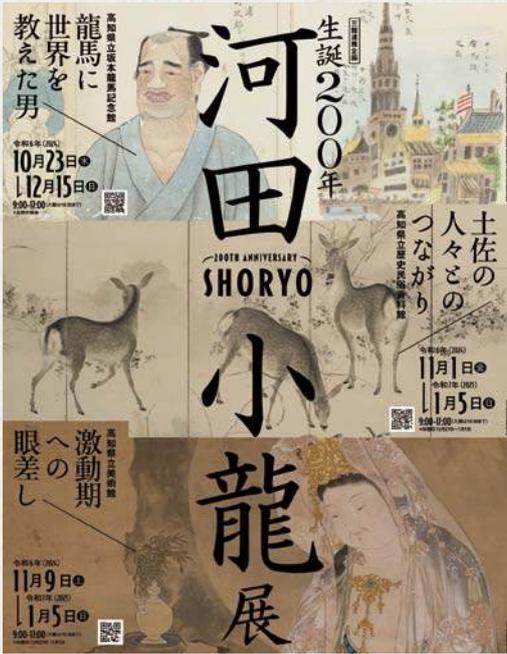
プ」を東高知篇、西高知篇、高知市街篇の3種作成し、現在も配布しています。

### ■連携の今後

「河田小龍」展における連携は、県立3館にとどまらず、アクトミュージアム（香南市）、芸西村文化資料館にも協力の輪が広がり、それぞれの館でも所蔵されている小龍作品を小龍展の会期に併せて展示いただきました。すべてご覧いただいた方には、より一層深く小龍を知っていただけたことと思います。

また、広報面でも3館の力を合わせながらその取り組みが実施できました。最たるものは、絵本作家の柴田ケイコさんに小龍を「しょうりょうさん」というキャラクターで描いていただいたことです。一見、難しそうでとっつきにくい日本画の世界ですが「しょうりょうさん」のおかげで楽しい雰囲気で紹介することができました。

今後も財団や県立の垣根を越えた連携や、今以上に多くのみなさまに楽しんでいただける展覧会を企画できればと思っています。



チラシ・ポスターも3館で1つのデザインとする初の試み。それぞれの館のカラーを表現すべく、メインにする資料選びもデザイナーさんを含めて話し合いを重ねました。



しょうりょうさん  
©柴田ケイコ



## 第19回 岡豊山フォト コンテスト作品展示中!

令和6年11月23日(土)~令和7年1月26日(日)

最優秀賞ほか各賞が決定しました!!なお、来場者の皆様が選ぶ「みんなのお気に入り賞」の投票を行っています。



▲「緑陰に憩う」島元慶子(最優秀賞)



▲「秋めく足音」片山美波(優秀賞)



▲「春の雨」明神玲子(優秀賞)



▲「石段の片隅の秋」北村和絵(スマホ大賞)

ご応募いただいた皆さんの四季折々の色彩豊かな作品を展示中!

ぜひ鑑賞にお越しください。

(1Fフリースペース)

(総務事業課)



## 第12回旧大栃高校 民俗資料一般公開 開催しました!

令和6年11月9日(土)・10日(日)の2日間、当館の民俗資料を保管している旧大栃高校(香美市物部町)を一般公開しました。

今回も、ものべ民話と歴史の会のイベントが盛りだくさん!物部の民話の解説や語りで、伝説や昔話を深く楽しむとともに、大栃町歩きでは、かつての賑わいを追体験しました。また、いざなぎ流トークでは、10月の日月祭レポートと1月の県立美術館での公演をPR。濃い2日間でした。

そして梅野が昨年『博物館研究』に寄稿した旧大栃高校一般公開の報告「廃校に保管している民具の公開試行錯誤」が、令和6年博物館活動奨励賞を受賞しました。(梅野)



町並みガイド

「大栃今昔ものがたり」



## 体験! 張り子の絵付 令和6年12月7日(土)・8日(日)

干支の巳にちなんだへび張り子の絵付のワークショップを行いました。コーナー展「干支の玩具巳」の関連企画「ワクワクワーク 土佐和紙漆喰張り子 宝珠へびの絵付」です。

平成23年に卯年のウサギからスタートして毎年、いの町の草流舎のみなさんを講師にお招きしています。草流舎の張り子は、土佐漆喰を絵の具に使った淡い色合いが特徴です。

参加された方々からは、「自分だけの置物をつくることができ、よかった」、「子ども達と一緒に参加し、成長も感じる事ができ、毎年の記念となっています」、「宝珠の意味の話は感銘を受けました」などの声が寄せられました。(学芸課)



## 学校来館体験プログラム について

当館ではご要望に応じ、おもに小中学校の団体に向けた体験プログラムを実施しています。火おこし体験や甲冑体験、民家での火焚き体験などがありますが、一番人気は勾玉づくりです。「ろう石」という柔らかい石をサンドペーパーで磨いて、思い思いの勾玉を作ります。

1時間ほどで完成しますので、館内見学とあわせてぜひご利用ください。

※屋外で作業するため、雨天時は実施できません。

また、暑さや寒さの厳しい時期も実施が難しい場合があります。

※詳細は、HP「学校関係の皆さまへ」をごらんください。(学芸課)



## 第19回岡豊山フォトコンテスト 作品展示

1月26日(日)まで  
本年度募集作品を2  
階ロビーと1階廊下へ  
展示します。  
来場者人気投票(みんなの  
お気に入り賞)も実施中!



最優秀賞「緑陰に憩う」島元 慶子

## 土佐のまほろば ウォーク2024



- 1月19日(日) 8:30～12:00  
特別編 国史跡・岡豊城跡の山城遺構よ、よみがえれ!
- 3月20日(木・祝) 8:30～11:30  
ガイドにおまかせ・タツクリ岡豊城跡  
参加費：各回500円 若干名受付中

### コーナー展

## 干支の玩具巴



1月19日(日)まで

山崎茂さんの郷土玩具コレク  
ションを中心に、今年の干支、  
巴にちなむ日本各地のヘビの郷土玩具を展示します。

出雲張り子(島根県)

## 民家で囲炉裏の火焚き

1月19日(日)、2月16日(日)

岡豊山歴史公園に移築し  
た茅葺屋根の山村民家  
で、毎月第3日曜日9時  
半からお昼前まで、いろ  
りに火をいれます。ご参  
加お待ちしております。



令和7年5月7日より観覧料が変わります。  
〔通常展〕大人(18才以上) 500円  
〔企画展〕大人(18才以上) 700円

岡豊風日(おこうふうじつ) 第124号  
令和7年(2025)1月10日  
編集・発行 (公財)高知県文化財団  
高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南門市岡豊町八幡1099-11  
TEL 0888-8662-2211  
FAX 0888-8662-2110

開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館することがあります

観覧料 (通常展)大人(18才以上) 470円  
団体(20名以上) 370円  
(企画展)常設展示込み 520円  
団体(20名以上) 420円

※特別展は別に定めます  
無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳  
所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者  
保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所  
持者とその介護者(一名)

印刷・川北印刷株式会社

<https://www.kochi-rekimin.jp>  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

## 企画展

# 西南四国の中世社会と公家

2月28日(金)～5月6日(火・振休)

土佐の一条氏と南予の西園寺氏。いずれも京都から下向し、公家から武家へと変貌しました。両者をあわせて、また対比してみると、西南四国、中世社会の様子と変容を浮かび上がらせてみます。政治・経済・信仰の各面においてかれらは西南四国に何を求めていったのでしょうか。古文書や寺社に残る歴史資料、京都市や長崎県松浦市内の遺跡を含め発掘された出土資料を通じて、西南四国の中世社会を再認識していただく機会になればと思います。



【4/19  
～5/6  
のみ実物展示】



歯長寺縁起(重要文化財)  
西予市 歯長寺蔵【県内初公開】  
(愛媛県歴史文化博物館管理)

一条房家画像(部分)  
四万十市教育委員会蔵

### 企画展関連催し

※全て要観覧券、ミュージアムトーク以外要予約

- 講演会 「海の国、土佐の源流を西南四国から探る - 鎌倉時代の京の覇者との関係をふまえて -」  
3月9日(日) 14:00～16:00 (先着各100名)  
講師：鋤柄 俊夫 氏(元同志社大学教授、高知県史編さん委員会委員(考古部会長))
- 講座① 「一条氏と西南四国の城郭」  
3月2日(日) 講師：当館副館長 松田 直則
- 講座② 「伊予西園寺氏と南予の争乱」  
4月19日(土) 講師：愛媛県歴史文化博物館専門学芸員 山内 治朋 氏
- 講座③ 「一条教房の幡多荘下向と在地勢力 - 『大乘院寺社雑事記』に見る幡多荘直務支配の様相 -」  
5月6日(火・振休) 講師：歴史研究家 東近 伸 氏  
講座はいずれも14:00～15:30 (先着各100名)
- ミュージアムトーク  
4月12日(土)・5月3日(土・祝) いずれも13:30～14:00
- ワクワクワーク  
「岡豊城跡クイズ&探検！」  
4月13日(日) 10:00～11:30 (先着15名)  
※荒天時は中止の場合あり



長崎県松浦市楼樁田遺跡出土資料  
松浦市教育委員会蔵



金剛福寺の青磁  
【土佐清水市指定文化財】  
土佐清水市 金剛福寺蔵